

## 1. 業務の目的と内容

### 1. 1 業務の目的

平成 19 年に創設された都市再生推進法人制度は、平成 30 年 12 月末時点で、全国 50 団体まで増加している。

これらの都市再生推進法人は、各地域の自治体と連携しながら、エリアマネジメント、リノベーションまちづくり、公共空間の利活用などの多様な官民連携まちづくりに取り組んでおり、地域の中での役割・機能も多様化している。このような背景を踏まえて、本業務においては、都市再生推進法人の活動を把握し、類型的・体系的に整理するとともに、その類型に応じた取組の特徴や課題等についてとりまとめる。さらに今後は、都市の課題に対して、官と民が垣根を超えてボーダーレスに取り組んでいくことが重要であることから、その取組みの一層の推進を図るため、全国規模での効果的な普及啓発方策を検討し、横展開を推進することを目的とする。

## 1. 2 業務の内容

本業務の内容を以下に示す。

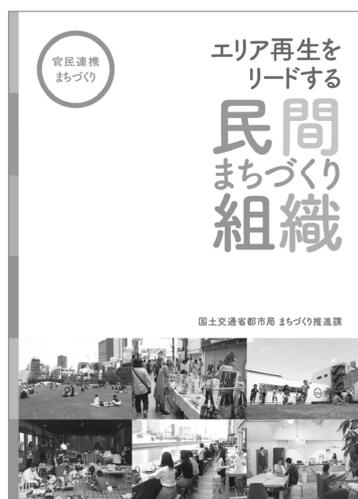
### ■都市再生推進法人等の民間まちづくり団体の取組の紹介・連携促進の場の企画・運営による知見の収集・整理 (⇒ 2. 都市再生推進法人等の民間まちづくり団体の取組の紹介・連携促進の場の企画・運営による知見の収集・整理 参照)

○東京、大阪で同時開催する普及啓発イベントの企画、当日に話題提供する動画コンテンツの制作、イベントの運営



### ■多様化する都市再生推進法人等の民間まちづくり活動の現況把握及び普及啓発方策の検討 (⇒ 3. 多様化する都市再生推進法人等の民間まちづくり活動の現況把握及び普及啓発方策の検討 参照)

①民間まちづくり組織への期待、事例による取組みのヒント、都市再生推進法人制度の活用法等を紹介するリーフレットの作成



②民間まちづくり団体へのアンケート調査の実施  
③地方公共団体へのアンケート調査の実施

## 2. 都市再生推進法人等の民間まちづくり団体の取組の紹介・連携促進の場の企画・運営による知見の収集・整理

### 2. 1 情報共有・連携を促進する場の企画

#### 1) 企画概要

様々な手法を用いて先進的なまちづくりに取組む民間まちづくり団体が実践する事例等の紹介を通じて、その実践から得た知見やノウハウ等を、都市再生推進法人等の民間まちづくり団体やそれらと連携する地方公共団体等が共有する機会をつくる。また、これを題材に、まちづくりを進めていく上での課題やその解決方法について、専門家や実務者の議論を通じて、官民連携によるまちづくりの実務に対する理解を深め、関係者の取組みの機運を高めることを目的とする。今年度は、官民連携のボーダーレスなまちづくりを推進するために、国土交通省と全国エリアマネジメントネットワークの共催によるシンポジウム（「官民連携まちづくり DAY」）を下記の通り企画した。

なお、開催場所は、全国から参加がしやすいように東京と大阪の2拠点での開催とした。

#### ■官民連携まちづくり DAY の開催概要

##### 官民連携まちづくり DAY

2020年1月31日（金）

##### ●シンポジウム「官民連携まちづくり DAY:まちづくり組織の実践力の向上に向けて」

（主催：国土交通省／全国エリアマネジメントネットワーク）

概要 全国各地で実践的な官民連携によるまちづくりを主導している専門家・実務家によるプレゼンテーション・パネルディスカッション、動画による先進事例（氷見市、宇都宮市、熱海市）の紹介

時間 14：00～17：00

会場 東京：一橋大学一橋講堂（学術総合センター内）  
大阪：うめきたシップホール

定員 東京：400名 ※申込数が多かったため当初の定員300名から増加して対応（申込実数：408名）  
大阪：180名 ※申込数が多かったため当初の定員150名から増加して対応（申込実数：181名）

##### ●懇親会（東京会場のみ）

概要 シンポジウム参加者の交流を促進するための懇親会を実施した。

定員 100名

料金 5,000円（1人当たりの参加費）

時間 17:30-19:30

会場 学術総合センター食堂（東京会場と同じ建物内）

## 2) シンポジウムの概要

シンポジウムの目的やねらい、テーマ、構成等について以下に示す。

なお、シンポジウムは、動画、実践的な官民連携によるまちづくりを主導しているの方々によるパネルディスカッションの2部構成とする。

### ■シンポジウムの目的・ねらい

多くの都市のまちづくりの現場において共通して必要とされる要素（遊休不動産の活用、都市の魅力を高める公共空間の利活用、ローカルな地域経済の活性化へとつながる事業の創出）に着目し、それらの要素に特化した先進事例の紹介とこれを題材とした専門家、実務家によるディスカッションを行う。

また、官民連携まちづくりにおいて必要とされるまちづくりにおいて重要な要素である遊休不動産の活用、公共空間の利活用、事業の創出に関しては、好事例を選定して動画として実践のポイントを伝えることとする。動画を作成する狙いとしては、メッセージの伝えやすさに加え、同シンポジウム終了後にインターネット等で視聴が可能な状態にすることで、繰り返しの視聴やシンポジウムに参加できなかった人への普及啓発ツールとしての利用を可能とするためである。

### ■登壇者の選定

東京、大阪会場それぞれに登壇者を選定する。モデレータについては、エリアマネジメントの専門家を選定する。パネリストについては、上記の3つの要素について実践経験がある人物を中心に選出を行った。またダイバーシティ推進の観点から、女性のパネリストを含めることとした。

#### 東京会場

役割	氏名	役職	専門
モデレータ	保井 美樹	法政大学教授・ 全国エリアマネジメントネットワーク副会長	エリアマネジメント
パネリスト	水代 優	グッドモーニングス（株） 代表取締役	地域プロデューサー
パネリスト	寺井 元一	(株)まちづくりエイティブ 代表取締役	地域プロデューサー リノベーション
パネリスト	鈴木 美央	オープラスアーキテクチャー (同) 代表社員	マーケットの 企画運営

#### 大阪会場

モデレータ	嘉名 光市	大阪市立大学大学院工学研究科 都市系専攻 教授	都市計画
パネリスト	星野 新治	(株)NOTE 取締役副社長	地域再生
パネリスト	園田 聡	(有)ハートビートプラン 工学院大学 客員研究員	プレイス メイキング
パネリスト	岸本 千佳	(株)アッドスパイス代表	リノベーション・ 不動産

## ■パネリストについて

### 東京会場

氏名・役職	経歴
<p>保井 美樹</p> <p>法政大学教授・ 全国エリアマネジメントネットワーク副会長</p>	<p>法政大学現代福祉学部・人間社会研究科教授・(一社)遠野みらい創りカレッジ理事/1969年生まれ。1991年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1997年New York University, Robert F. Wagner Graduate School of Public Service, Urban Planning 修士課程修了。2003年東京大学より博士号(工学)取得。法政大学専任講師を経て2012年より現職。IDA: International Downtown Association 理事(2018年～現在)。内閣府地方創生×少子化対策検討会委員(2019年～現在)など各種委員・理事を務める。専門は、エリアマネジメント、都市・地域経営・公民連携まちづくり。</p>
<p>水代 優</p> <p>グッドモーニングス(株) 代表取締役</p>	<p>グッドモーニングス(株)代表取締役/1978年生まれ。「グッドモーニングス(株)」を設立(2012年)。(株)IDEEにて新規出店を手掛ける(2012年～)。その他「SEA DAYS」・「SHUN GATE」・「Good Life Marunouchi」など(2014年～)。「食」や「カルチャー」を軸にしたクリエイティブな空間の企画運営やメディア制作を得意とし、さまざまなコンテンツを織り交ぜ街に賑わい、地域コミュニティの拠点を創出している。東京・丸の内や日本橋をはじめ、全国各地で「場づくり」を行い、地域の課題解決や付加価値を高める数多くのプロジェクトに従事している。</p>
<p>寺井 元一</p> <p>(株)まちづくりクリエイティブ代表取締役</p>	<p>(株)まちづくりクリエイティブ代表取締役/1977年生まれ。2001年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。「(株)まちづくりクリエイティブ」を設立(2010年)。千葉県・松戸駅前の極小エリアを「クリエイティブな自治区」にする「MAD Cityプロジェクト」を開始。同エリアにて原状回復不要や入居者コミュニティ支援などの特徴をもつ不動産サービスを軸に、150人以上のクリエイティブ層の誘致を実現。佐賀県武雄市にて、温泉街および保養地の活性化プロジェクト「TAKEO MABOROSHI TERMINAL」をはじめ、他地域でもプロジェクトに従事している。</p>
<p>鈴木 美央</p> <p>オープラスアーキテクチャー(同) 代表社員</p>	<p>オープラスアーキテクチャー(同)代表社員/1983年生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。その後、渡英し、設計事務所 Foreign Office Architects ltdにて2006年より2011年まで勤務。コンセプトステージから竣工まで、世界各国のプロジェクトを担当。複数の国際コンペで一等を受賞。帰国後、慶應義塾大学理工学研究科勤務、2013年より同大学博士後期課程在籍、小さな建築の集合体がまちに及ぼす影響を明らかにする目的で公共空間を活用したマーケットの研究を行い、2017年博士号(工学)取得。2016年よりオープラスアーキテクチャー(同)主宰し、建築意匠設計、地方公共団体のアドバイザー、マーケットの企画・運営、教育と建築に関わる業務を多岐に行う。著作に『マーケットでまちを変える：人が集まる公共空間のつくり方』がある。</p>

## 大阪会場

氏名・役職	経歴
<p>嘉名 光市</p> <p>大阪市立大学大学院 工学研究科都市系専 攻教授</p>	<p>大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻教授/1968年生まれ。1992年東京工業大学工学部社会工学科卒業。(株)三和総合研究所開発本部研究員を経て、2001年同大学院社会理工学研究科博士後期過程修了。大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻講師を経て、2017年より現職。以下、各委員を担当(大阪商工会議所都市活性化委員会副委員長、「デザイン都市・神戸」創造会議委員、堺市都市計画審議会委員ほか)。京阪神を中心として都心の再生に向けた都市デザイン、参加型まちづくり、空間デザインに従事している。</p>
<p>星野 新治</p> <p>(株)NOTE 取締役副社長</p>	<p>地元新潟で地域計画・公園設計などに携わった後、東京のブランディング会社で商業施設開発等を担当。2015年に篠山に移住し、(一社)ノオトに理事として参画し、2016年にはNOTEの地域開発を担う会社として(株)NOTEの設立に携わる。現在では「篠山城下町ホテル NIPPONIA」など、全国各地で古民家等の地域資源を活かした活性化プロジェクトを推進。</p>
<p>園田 聡</p> <p>(有)ハートビート プラン 工学院大学 客員研究員</p>	<p>(有)ハートビートプラン・工学院大学客員研究員/1984年生まれ。2009年工学院大学大学院修士課程修了。商業系企画・デザイン会社勤務を経て、2015年同大学院博士課程修了。博士号(工学)取得。工学院大学客員研究員(2015年～)。(株)アーバン・ハウス都市建築研究所研究員(2015～2016年)。2016年より現職。現職での実践を中心に、認定NPO法人日本都市計画家協会理事、(一社)国土政策研究会公共空間の「質」研究部会ディレクター等、大阪・東京を拠点にプレイスメイキングに関する研究、実践に従事している。</p>
<p>岸本 千佳</p> <p>(株)アッドスパイス 代表</p>	<p>(株)アッドスパイス代表/1985年生まれ。宅地建物取引士。2009年滋賀県立大学環境建築デザイン学科卒業。その後、東京の不動産ベンチャーを経て、2014年に京都でアッドスパイスを設立。不動産の企画・仲介・管理を一括で受け、建物と街のプロデュースを業とする。「音の出せるシェアアトリエ」や「あたらしい職住一体群」など、都市課題と建物の資源に着目した独自の企画力をウリにしている。暮らしや街に関する執筆も手がける。著書に『もし京都が東京だったらマップ』(イースト新書Q)、『不動産プランナー流建築リノベーション』(学芸出版社)。</p>

## ■動画について

取り上げる参考事例については、なるべく地方都市から選定を行い、氷見市（富山県）、宇都宮市（栃木県）、熱海市（静岡県）を選定した。下記に詳細を示す。

## 氷見市

テーマ	地区	キーマン	取組のポイント
都市の魅力を高める 公共空間の利活用	氷見市・中央町商店街	村上 史博 氷見市 商工観光課	「みんなでつくるまちの“遊び場”」をコンセプトに、まちなかの公共空間で定期開催する「うみのアパルトマルシェ」を企画・運営し、まちなかの賑わいづくりに成果を挙げている点が注目される。

## 場所等概要

- ・富山県氷見市の中心部にある氷見市中央町商店街では、商店街北側の上庄川に架かる「北の橋」の架け替え工事が2016年から行なわれ、通行止めに伴う商店街の交通量や買い物客の減少といった影響が生じていた。
- ・この交通量の減少を逆手に取り、通りの一部（約150m）を歩行者天国にして人を呼び込む取組「うみのアパルトマルシェ」を2017年から定期的で開催している。



## 取組概要

### ○うみのアパルトマルシェ

「なかまと遊び、なかまと出会う じぶんたちの手でつくる“遊び場的”マルシェ」をコンセプトに、2017年から毎年、7月～11月までの毎月第3日曜日等で定期的で開催。約150mの区間に、毎回、軽食や特産品、スイーツやアート・クラフトなど約20店舗が出店。

また、ファミリーで楽しめるワークショップやカルチャースクール（ヨガ等）などのプログラムも実施。



## 宇都宮市

テーマ	地区	キーマン	取組のポイント
個人不動産活用と事業支援を通じた地域の「場所づくり」	宇都宮市・もみじ通り周辺	塩田 大成 (株)ビルスタジオ 代表取締役	空き店舗の不動産仲介や設計までの「空間プロデュース」を行い、個人不動産の活用・再生を一括でサポートすることで、新規入居希望者一人ひとりや地域の価値にあった「場所づくり」をおこなっている。

### 場所等概要

- ・栃木県宇都宮市のもみじ通りは、東武宇都宮線・東武宇都宮駅から 300 メートルほどの場所にあり、国道 119 号（日光街道）と交差する細い通りである。江戸時代の頃は、武家屋敷のルーツを持つ高級住宅街であり、通りは日用品を商う生活商店街として活気に溢れていた。
- ・店主の高齢化や後継者不足によりシャッター街となったもみじ通りであるが、幹線道路から比較的近いにも関わらず閑静な環境であり、昭和 30～40 年代築のレトロ感のある建物が残っている。



### 取組概要

#### ○リノベーションによる地域の場所づくり

「地域の“場所づくり”」をコンセプトに、事業支援をすることで新しい担い手や個人店舗の開業につながった。2010 年から 2017 年にかけて 17 店舗が新規オープン。

#### ○地域のサロン 民説民営の「もみじ図書館」

築 50 年の木造アパート「カトレア荘」1 階の空き部屋を改装。一般の図書館の様に貸し出しは行わないが、来訪者に施設内で読書を楽しんでもらう空間となっている。子育て世代や高齢者を始めとした地域住民のサロン空間となっている。近隣住民組織のお祭りの場として使われることもあり、民説民営ではあるが機能としては公民館のような役割を果たしている。



## 熱海市

テーマ	地区	キーマン	取組のポイント
ローカルな地域経済の活性化へとつながる事業の創出	熱海市・熱海銀座地区	市来 広一郎 (株)machimori 代表取締役 NPO法人 atamista 代表理事	民間まちづくりの担い手の立場から、熱海の将来を活性化するビジョンを展望し、これを具体化する様々な活動を重ねて実績を上げている。特に、具体的な目標と戦略をもって人材育成事業を実施し、成果を挙げている点が注目される。

### 場所等概要

- 静岡県熱海市の中心部、熱海銀座地区は、熱海市の観光・宿泊業の発展とともに栄え、観光客用の土産物屋や地元住民向けの商店がひしめく非常に賑わいのある商店街であったが、観光産業の斜陽化とともに、衰退、2010年頃には、数多くの空き店舗が発生し、歩行者等もほとんど見られない状況にあった。
- 2011年頃より市来氏らを中心としたリノベーションまちづくりの取組がスタートし、複数のリノベーション事業の実施や道路空間を活用したマルシェ事業の実施等を通じて、地域関係者の意識も変化し、地区外からの空き店舗への新規出店もみられるようになり、現在はほぼ空き店舗がなくなる状況にまで改善されている。



### 取組概要

#### ○温泉玉手箱（オンたま）

2008年に行われている、地元の人でも気づいていない熱海の楽しみ方を再発見し、新しい熱海の体験を提供するプログラム。

#### ○海辺のあたみマルシェ

中心市街地に新規出店するクリエイター、農業・漁業者、飲食店等の起業家の発掘とまちのファンづくり、コミュニティづくりを目的に開催しているマルシェ。35回開催。

#### ○99℃ ⇒特にこの取組を紹介

2016年に始められた、熱海独自の起業家育成事業。土日を中心に合宿形式で、4カ月間に10回程度、テストマーケティングも含め、徹底して実践的な起業支援を行うプログラム。既に13の事業が誕生し、2019年はセカンドステージへのステップアッププログラムに重点化。



## ■シンポジウムの次第

14:00 開会・主催者挨拶

国土交通省 都市局長 北村 知久

14:10 『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生』

国土交通省 都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長 三浦 良平

14:20 第1部 「官民連携まちづくりの先進事例紹介」

《司会》

法政大学教授・全国エリアマネジメントネットワーク副会長 保井 美樹 氏

《パネリスト》

オープラスアーキテクチャー(同) 代表社員	鈴木 美央 氏
(株)まちづくりエイティブ 代表取締役	寺井 元一 氏
グッドモーニングス(株) 代表取締役	水代 優 氏

15:05 休憩(15分間)

15:20 第Ⅱ部 トークセッション「まちづくり組織の実践力の向上」

**東京会場**

《モデレータ》

法政大学教授・全国エリアマネジメントネットワーク副会長 保井 美樹 氏

《パネリスト》

グッドモーニングス(株) 代表取締役	水代 優 氏
(株)まちづくりエイティブ 代表取締役	寺井 元一 氏
オープラスアーキテクチャー(同) 代表社員	鈴木 美央 氏

**大阪会場**

《モデレータ》

大阪市立大学 教授 嘉名 光市 氏

《登壇者》

(株)NOTE 取締役副社長	星野 新治 氏
(有)ハートビートプラン・工学院大学客員研究員	園田 聡 氏
(株)アッドスパイス 代表	岸本 千佳 氏

17:00 閉会

〔 ※総合司会：国土交通省 都市局 まちづくり推進課  
官民連携推進室 企画専門官 塚田 友美 〕

## ■シンポジウムの配布資料一覧

〈次第〉

〈第Ⅰ部 基調講演資料〉⇒ 2.2 2) シンポジウム／第Ⅰ部 国土交通省講演資料 参照

- ・『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生』  
(国土交通省 都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長 三浦 良平)

〈第Ⅱ部 トークセッショントークセッション（「まちづくり組織の実践力向上」）記録〉

⇒2.1 5) Slido の使い方に関する資料 参照

- ・「第2部の質疑応答における質問方法」

〈パンフレット〉⇒ 3.1 都市再生推進法人の組織、活動内容、特徴等をとりとまとめた冊子の  
作成 参照

- ・「エリア再生をリードする民間まちづくり組織」

〈アンケート〉⇒ 用紙は報告書 2.1 4) 官民連携まちづくり DAY シンポジウム／参加者アンケートの作成、結果は2.2 7) シンポジウム／参加者アンケート結果 参照

- ・官民連携まちづくり DAY／参加者アンケート



#### 4) 官民連携まちづくり DAY シンポジウム／参加者アンケートの作成

今後の情報共有・連携促進の場づくり等に向けた参考として、アンケートを作成し、シンポジウムで配布し、回収した（結果については、2.2 7) シンポジウム／参加者アンケート結果 参照）。

### 官民連携まちづくり DAY／参加者アンケート

東京会場

#### ■シンポジウムの内容について

Q 1. 本日のシンポジウムに参加した理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1) 「官民連携まちづくり」のテーマに興味があったから	
2) 登壇者に興味があったから（ご興味があった登壇者名：_____）	
3) 知り合いに勧められたから	
4) その他（_____）	

Q 2. 官民連携まちづくりの先進事例紹介（第1部）の動画の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。また、印象に残ったお話やキーワードを教えてください。

内容：1) とても満足	2) やや満足	3) 普通	4) やや不満	5) 不満
時間：1) 長い	2) 普通	3) 短い		
＜印象に残ったお話やキーワード＞				

Q 3. トークセッション（第2部）の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

内容：1) とても満足	2) やや満足	3) 普通	4) やや不満	5) 不満
時間：1) 長い	2) 普通	3) 短い		
＜印象に残ったお話やキーワード＞				

Q 4. 今回のシンポジウムのテーマである(A) 公共空間の利活用、(B) 遊休不動産の活用、(C) 事業の創出に関するご自身の取組みの程度について、当てはまるもの一つに○をつけてください。

(A) 公共空間の利活用		
1) 実践している	2) 実践の準備をしている	3) 実践に向けて情報を収集している
4) 特に行っていない		
(B) 遊休不動産の活用：		
1) 実践している	2) 実践の準備をしている	3) 実践に向けて情報を収集している
4) 特に行っていない		
(C) 事業の創出：		
1) 実践している	2) 実践の準備をしている	3) 実践に向けて情報を収集している
4) 特に行っていない		

裏面にもアンケートがございます)

Q 5. 本日のシンポジウムに参加し、Q4の3つのテーマそれぞれに対する実践力の向上につながる実務的な取組事例やヒントを得ることはできましたか。それぞれのテーマについて、当てはまるもの一つに○をつけてください。

(A) 公共空間の利活用： 1) よく得られた    2) 得られた    3) あまり得られなかった    4) 全く得られなかった
(B) 遊休不動産の活用： 1) よく得られた    2) 得られた    3) あまり得られなかった    4) 全く得られなかった
(C) 事業の創出： 1) よく得られた    2) 得られた    3) あまり得られなかった    4) 全く得られなかった

Q 6. 今回のような「官民連携まちづくり」のシンポジウムに、また参加したいと思いますか。

1) ぜひ参加したい    2) 機会があれば参加したい    3) 参加しない    4) わからない
--

Q 7. 今後扱ってほしいテーマがあればお書きください。

--

Q 8. 本日のシンポジウムについて、ご意見・ご感想などをご自由にお書きください。

--

■あなたご自身についておうかがいたします。

●お住まい (                    ) 都・道・府・県 (                    ) 市・区・町・村
●ご職業 1) 地方公共団体    2) 国    3) 大学関係者    4) 民間企業    5) 各種団体 6) 学生    7) その他 (                    )
●ご専門 1) 都市    2) 建築    3) 土木    4) 出版・メディア    5) その他 (                    )
●年齢 1) 10代    2) 20代    3) 30代    4) 40代    5) 50代    6) 60代    7) 70代以上
●性別 1) 男性    2) 女性
●今回のシンポジウムのご案内をどちらの関係者の広報で知りましたか？ 組織・団体名等 (                    )

ご協力どうもありがとうございました。  
このアンケート用紙は、会場出口付近にて回収いたします。

## 5) Slido の使い方に関する資料

シンポジウム参加者から登壇者への質問事項を収集する手段として web ベースのプラットフォームの Slido の使用方法を詳しく記した資料を作成し、配布した。

東京会場

2020年1月31日  
官民連携まちづくり DAY

### 第2部の質疑応答における質問方法

Slido (web ベースのプラットフォーム) で質問を入力して下さい。

**第2部トークセッション「まちづくり組織の実践力の向上」の質疑応答で利用します。それまでは質問を入力しないでください。**

- ◆ 第2部開始後に司会者からの指示があったら、お持ちのスマートフォンのカメラや QR コードリーダーアプリ等で下記の QR コードを読み取り、Slido のホームページにアクセスをし、第2部に関する質問を入力してください。
- ◆ 無記名での投稿も可能です。

1. アクセス方法 ⇒ QR コードを読み込む。



東京会場

<QR コードが読み込めない場合>  
下記の方法を試してください。

- ① 検索サイトで Slido と入力、或いは <https://www.sli.do/jp> をブラウザの URL に入力
- ② アクセスコードを入れる。

東京会場 D029 (アルファベットの D の大文字と数字 3 桁)

<裏面につづきます>

## 2. 操作方法：質問の投稿

### 【質問の投稿方法】

1回の投稿は160字以内でお願いいたします。



赤枠内のエリアをタップする。

質問を入力し、記名する場合  
 「名前を追加」欄に記入。その後  
 緑色の「送信」ボタンを押す。

投稿完了

## 3. 操作方法：その他

### 【投稿後に誤った内容を投稿したい場合(編集も同じ)】



投稿の右下の「…」をタップし、投稿を削除したい場合は「撤回する」を選択(内容を編集したい場合は「編集する」を選び、編集)

確認画面が出たら、「撤回する」を選択。

### 【既に同じような投稿がある場合】



既に同じ内容の質問があれば、関心を示すために、手のマーク(「いいね」ボタン)を選択。